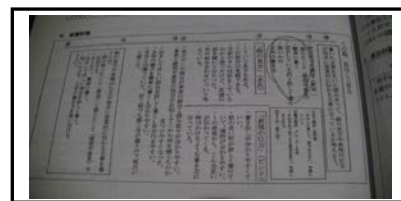


4 板書予定（教科の専門性④）

○指導案に掲載

これまでの指導案には、板書予定が書かれることが少なかった。あったとしても簡略な内容が多かった。板書予定は、子供の思考と密接に繋がっている。そこで、あらかじめ問題解決的な学習の流れを想定し、一つ一つの問題解決の段階の内容を予想した板書を書いておくこととよい。特に解決の段階の見通しや深い学びの内容を予想しておくことが重要だ。



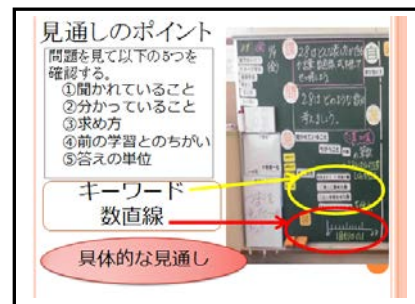
5 見通し（教科の専門性⑤）

○板書（見通し）

学習指導要領に「見通し・振り返り」の重要性が記述されている。その「見通し」を教科横断的な見地や教科間連携の視点でいかに授業に取り込めるかだ。

まず、問題や資料を提示し、気づきをもたせる。ここは単なる気づきであって見通しの中心ではない。気づきの後、学習課題の設定を行う。

その文言を取り入れ、解決の見通しをもたせる。数学であれば「求める方法」、社会科であれば「原因を探る」等だ。板書であれば、「本時のキーワード」のカードを「学習課題」の下に移す。そのカードを使って、より詳細な見通しのための説明を行う。子供たちがこれなら解けそうだ、出来そうだというところまでもっていく。ここは教師の重要な出番だ。



なお、学習指導案の展開の部分には、予想される「見通し」を書いておくのは当然のことである。

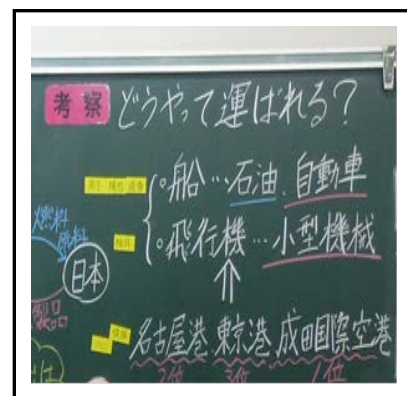
学習課程	学習活動（学習） 予想される児童の反応	○子供全員が活躍する姿
問の共有（見通し）	○今までの学習から解き方の見通しを立てましょう。 ・ 三角形の内角の和が 180° であること基と考えれば ・ 対角線を引いて三角形を作ると求めることができます。 ・ 四角形の内角の和が 360° であることも使えると思います。	⑤課題設定後、できるだけ詳細な解 見通しを発表（キーワードが並ぶ） ⑥見通しが立つかグー・パー確認

6 考察（教科の専門性⑥）

○板書（考察）

「深い学び」は考察のところであろう。子供たちは、まず、集団解決1で考えたことを出し合い内容の仲間分け（同じ・違う・似ている）を行う。仲間分けをした内容を練り上げるのが集団解決2の「考察」だ。この考察には、学習課題をかなり意識することが重要だ。考察の前に再度、学習課題を子供全員で読む。そのあと、仲間分けした内容をもとに、学習課題について結論を出す。算数であれば「④④④④④」がアイテムとして使える。

なお、見通しと考察はかなり連動（親戚関係）しているので。ここに見通しで使ったキーワードのカードが3回目に動いてくる。もしくは、見通しの板書の位置を使って考察をしていくことも考える。



なお、学習指導案の展開の部分には、予想される「考察」を書いておくのは当たり前のことであろう。

学習課程	学習活動（学習） 予想される児童の反応	○子供全員が活躍する姿
・ 学び合い2（考察） 14:03	○まとめた表や話し合いから多角形の角の大きさを求めるときにどのようにすればよいと言えるでしょう。 ・ 一つの頂点から対角線を引き、三角形に分ければ良い。 ・ 表を見ると、180°ずつ角の大きさの和が増えている。 ・ 多角形の角から2を引いた数が三角形の数になっている。 ・ 多角形の中でできる三角形の数から角の大きさの和を求めることができる。	⑪課題や見通しを再確認後、ホワイトボードを見て考察を行う

	三角形	四角形	五角形	六角形	七角形	八角形
三角形の数	1	2	3	4	5	6
角の大きさの和	180°	360°	540°	720°	900°	1080°

